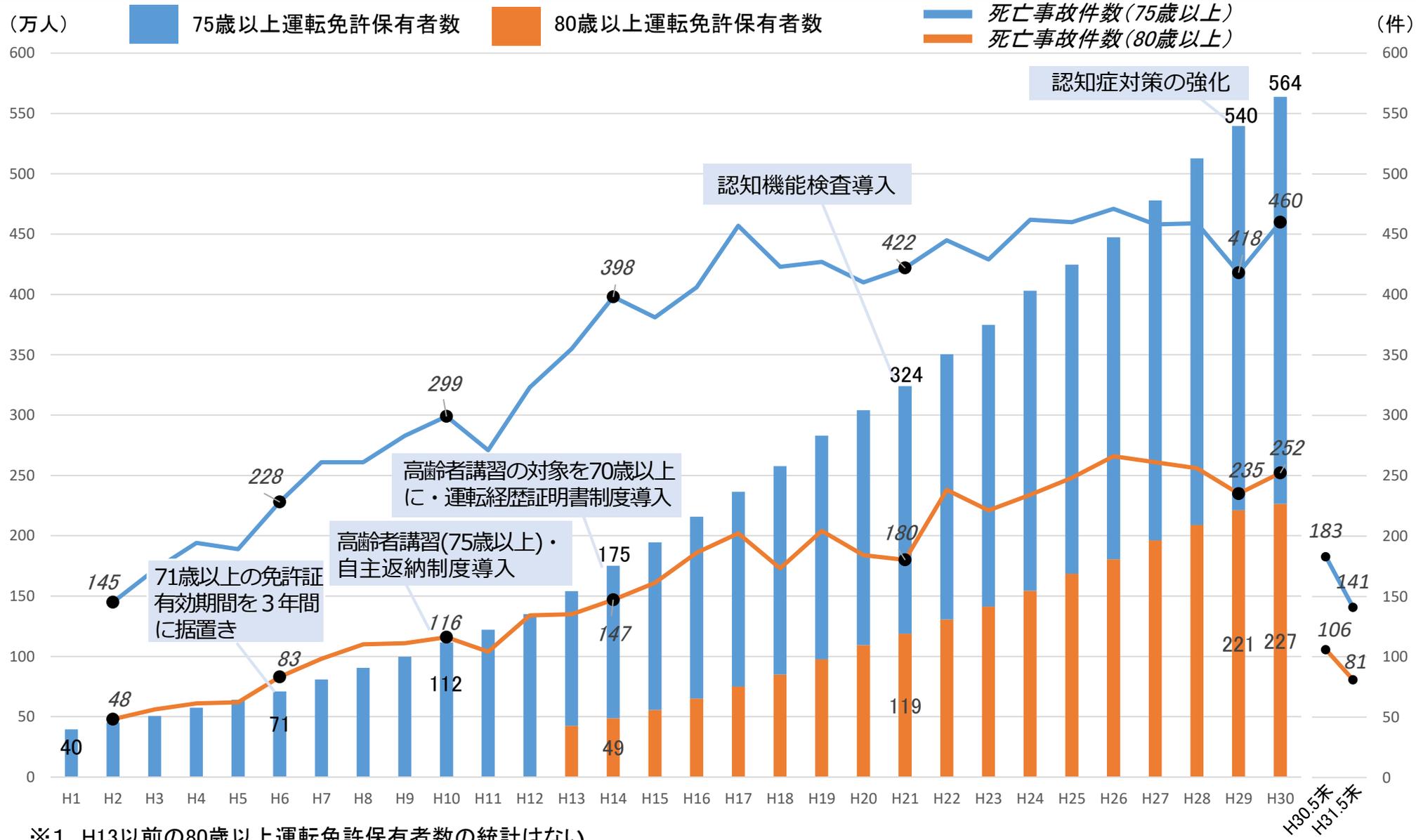


75歳以上高齢運転者の免許保有者数と死亡事故件数(年別推移)



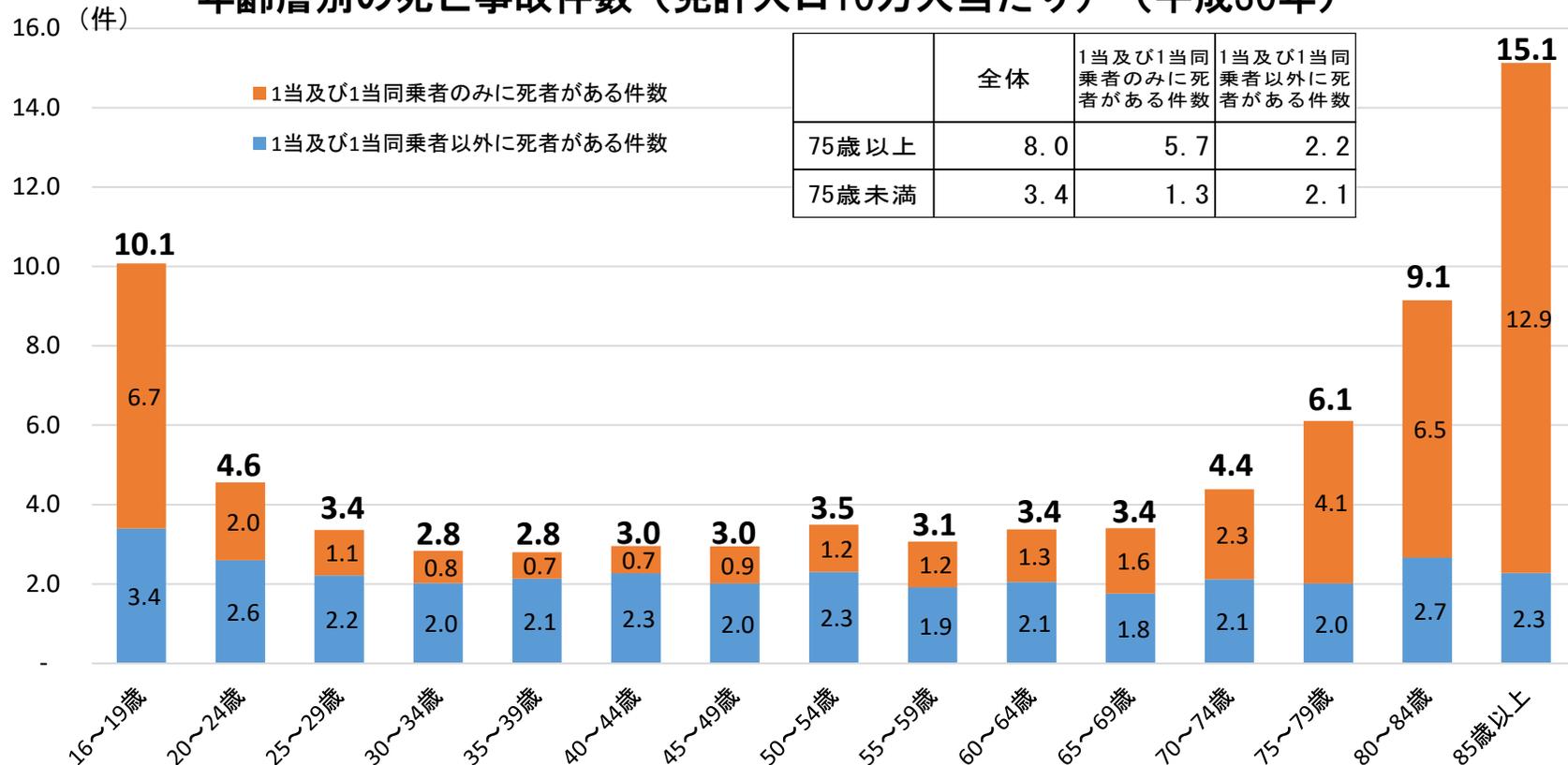
※1 H13以前の80歳以上運転免許保有者数の統計はない。

※2 H2以前の死亡事故件数の統計はない。

年齢層別の免許人口当たり死亡事故件数

- 免許人口当たりの死亡事故件数をみると、75歳以上の高齢運転者は、75歳未満の運転者と比較して死亡事故が多い。
- 1当及び1当同乗者以外に死者がある事故件数は、75歳以上の高齢運転者その他の年齢層で大きな差はない。

年齢層別の死亡事故件数（免許人口10万人当たり）（平成30年）



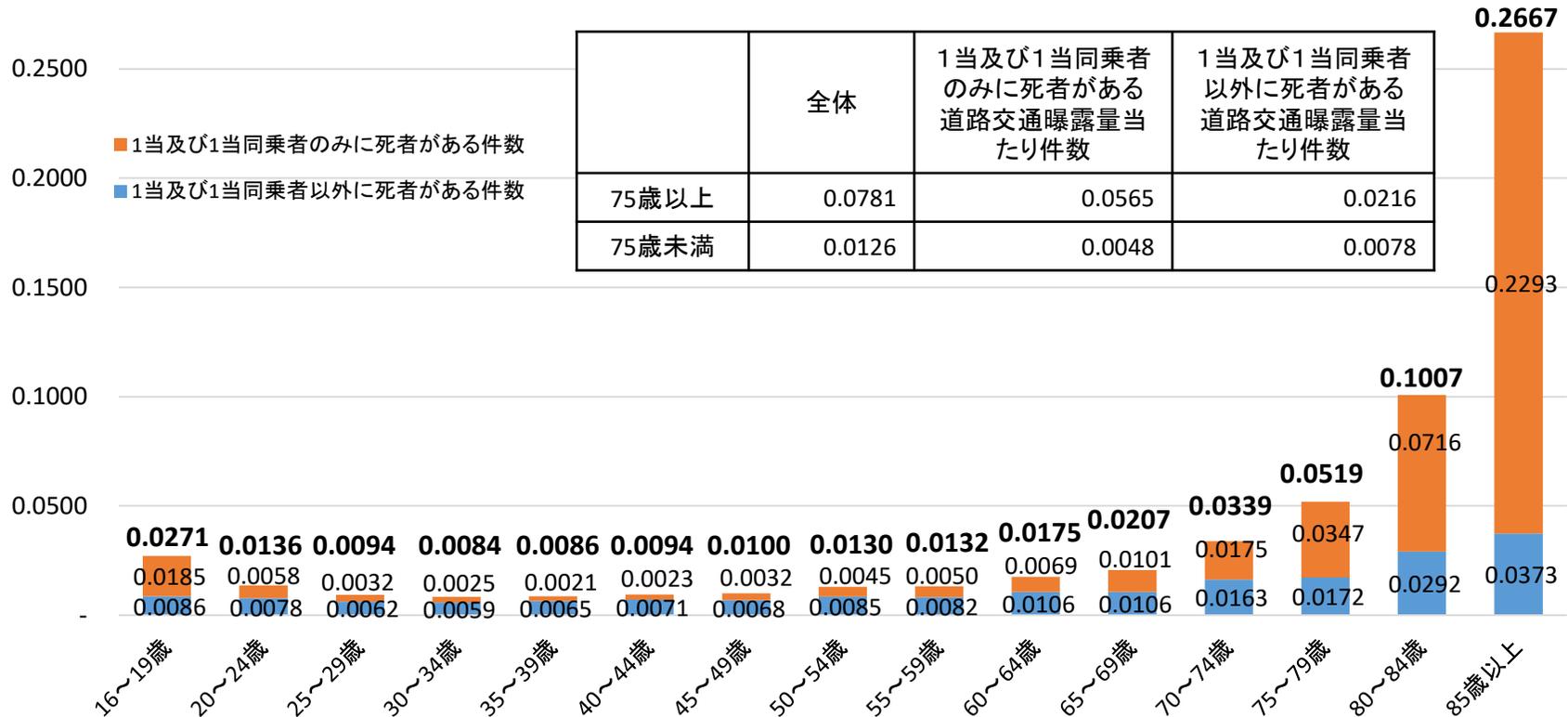
※ ・ 算出に用いた免許人口は、平成30年12月末現在の値である。
 ・ 「1当及び1当同乗者以外に死者がある事故」については、1当及び1当同乗者に死者がある場合を含む。
 ・ 無免許の件数を除く。

※ 第1当事者が原付以上の死亡事故を計上している。

年齢層別の道路交通曝露量当たり死亡事故件数

- 道路交通曝露量(無過失第2当事者数)当たりの死亡事故件数をみると、75歳以上の高齢運転者は、75歳未満の運転者と比較して死亡事故が多い。
- 75歳以上の高齢運転者による死亡事故は、1当及び1当同乗者以外に死者がある事故よりも、1当及び1当同乗者のみに死者がある事故の方がより増加している。

年齢層別の死亡事故件数(道路交通曝露量(無過失第2当事者数)当たり)(平成30年)

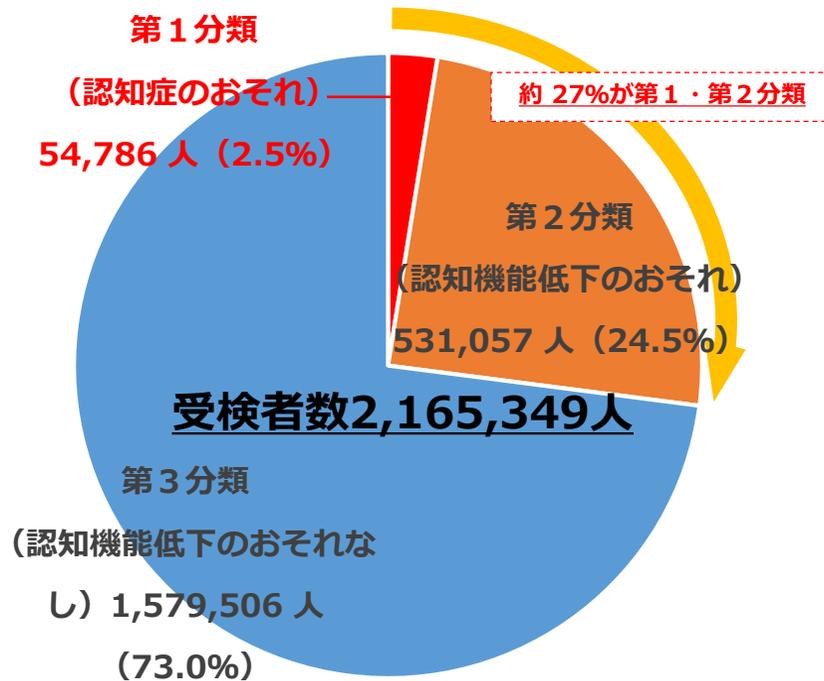


- ※ 「1当及び1当同乗者以外に死者がある事故」については、第1当事者又は第1当事者同乗者に死者がある場合を含む。
- ※ 第1当事者が原付以上の死亡事故を計上している。
- ※ 道路交通曝露量として、平成30年中の原付以上運転者(第2当事者)の違反なしの事故件数を用いた。

75歳以上の高齢運転者による交通死亡事故に関する分析

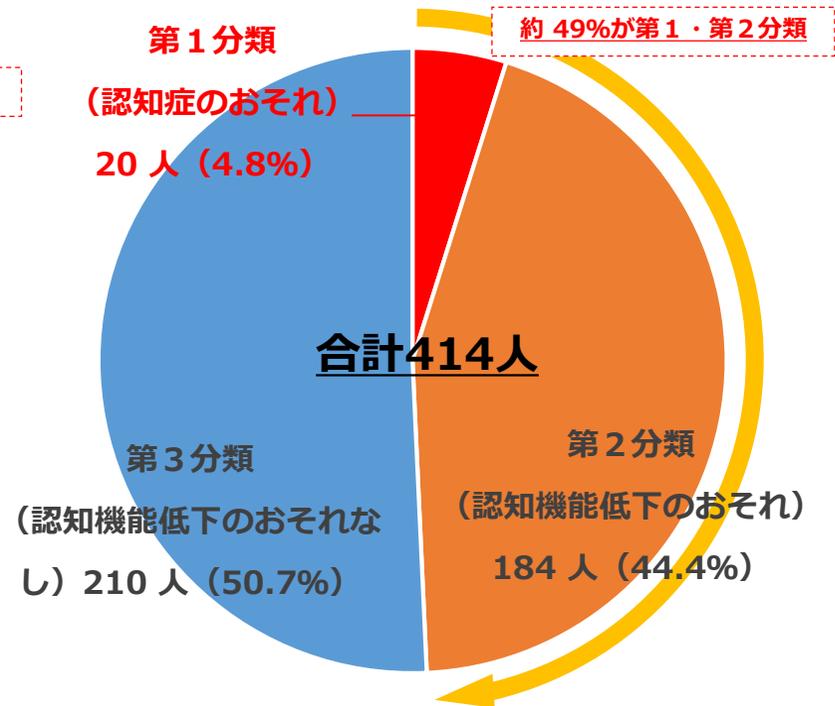
○ 認知機能検査の結果による内訳

認知機能検査受検者【平成30年】



- ※1 認知機能検査は更新時・臨時の両方を含む。
- ※2 人数は延べ人数
(例) 同一人物が認知機能検査を3回受検し、それぞれの判定が第1分類が2回、第2分類が1回となった場合には、受検者数は3人(第1分類:2人、第2分類:1人)とカウント

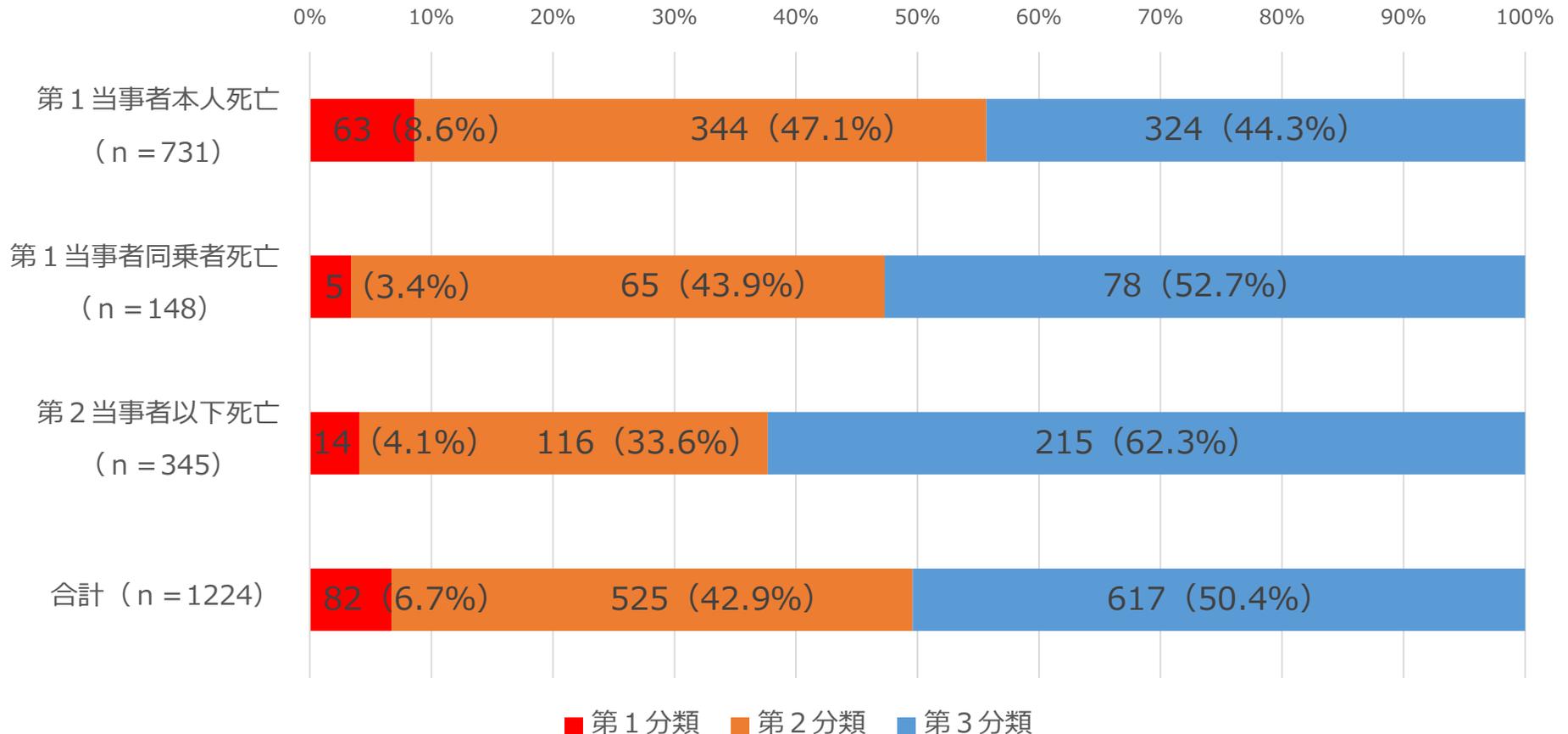
死亡事故を起こした運転者(75歳以上)【平成30年】



- ※1 図は平成30年中に死亡事故を起こした75歳以上の高齢運転者(原付以上第一当事者)の認知機能検査の結果を示す。
- ※2 平成30年中に死亡事故を起こした75歳以上の高齢運転者(原付以上第一当事者)は460人であるが、当該事故前に認知機能検査を受検していた者はその内の414人

75歳以上の高齢運転者による交通死亡事故に関する分析

○ 平成28年から30年に死亡事故を起こした75歳以上の高齢運転者（原付以上第1当事者）



※1 平成28年から30年までの間に死亡事故を起こした75歳以上の高齢運転者は1,337人であるが、当該事故前に認知機能検査を受検していた者はその内の1,224人

※2 第1当事者本人死亡には、同乗者が死亡した事故の第1当事者は含まない。

※3 第1当事者同乗者死亡には、同乗者が死亡した事故の第1当事者を含む。